

アセスメント訪問にかかる好事例

事例 1

対象者：67 歳男性、要支援 1

概要：脳梗塞で軽度の右麻痺あり。右手の違和感（箸が使いづらい、字が書きにくい）と階段での転倒不安の訴えあり。本人は、「元気になって仕事をしたい」との意向。アセスメント訪問を実施した結果、週 1 回の訪問看護（OT リハビリ）を導入。3 か月間のリハビリにより身体状況が改善。箸でお米をつまむことができるようになり、書字もサービス利用前に比べ筆圧をかけることができるようになった。坂道を走ることができるまでに回復し、本人も就職活動に専念したいとのことでサービス利用終了となった。

事例 2

対象者：64 歳女性、要支援 1

概要：脳梗塞の既往あり。自転車で転倒し、右膝蓋骨を骨折。ギプス固定 2 か月を経て、病院でのリハビリも終了となったものの、骨折前の状態には戻っておらず、もう少し歩きたいとの希望があり、アセスメント訪問を実施。訪問した理学療法士に対し、これまでの経過や思いを話しているうち、「以前利用していたフィットネスクラブに行けるようになりたい。杖なしで歩ける距離を増やしたい。」という具体的な目標がご本人の中で明確となる。アセスメントの結果、期間を 3 ヶ月と定めた上で訪問リハビリを開始した。利用日のエクササイズだけでなく、本人の改善状況に合わせてリハビリ担当者から出されるホームエクササイズを真面目に行った結果、当初は杖なし歩行可能な距離が 150 メートル程度であり、一人で買い物に行くことが困難であったが、3 か月後には自宅から 700 メートルほどのスーパーまで歩いて買い物に行けるようになった。担当ケアマネジャーからは、目標を決めて運動したからこそ達成感があったのではないかと、家族も一緒に参加して励ましてくれるようになったことも良かったとのコメントがあり、ケアマネジャーにとっても自立支援に向けた経験が積みあがった事例となった。